

特 259

109

夜馬

昭和改訂版
内二十



始



鶴

(梗概) 諸國一見の僧、攝州蘆屋の里にて一夜を明しけるふ、夜も更け
方の波間より、何とも知れず寄り来る物あり、見れば舟の形は有りな
から、唯だ埋木の如く乗りたる人も定かならず、如何なる者ぞと問ふ
に、鶴の亡心なりと明かして仔細を語る。近衛天皇の御時、夜毎に御
殿を襲ひて主上をおびやかす奉りけるが、或る夜それとも知らぬ頼政
の弓勢に射止められ難なく退治せられ、うはほ舟といふにて淀川に流
されしより浮みもやらずとて、成佛の縁を僧に頼み、再び變化の姿に
て現れ、射伏せられたる當時の様を舞ひ學びて成佛得脱の身となりぬ。



驚とらふ化生のものいふ説よてうづる
 母よ入らまは^上新は海といまおもてらふよ
 り今ふ執心結て^上あうにま見と申し
 説をいふと^上結り^上い^上あ^上驚の亡魂
 みくゆる路を^上急よ申ひ^上い^上古れと
 を^上物^上説^上い^上 ^{クリ同}あも^上を^上清^上院^上の^上法^上を^上徳^上の

時^上仁^上平^上の^上比^上る^上ひ^上よ^上ま^上を^上い^上は^上悟^上阿^上理^上
^上ま^上結^上の^上言^上信^上を^上信^上よ^上作^上せ^上て^上大^上法^上を^上修^上
 せ^上ま^上を^上れ^上を^上其^上結^上あ^上よ^上あ^上り^上を^上り^上 ^上清^上
 結^上あ^上ゆ^上に^上別^上を^上う^上あ^上い^上あ^上け^上る^上よ^上 ^上東^上三^上條^上
 乃^上其^上林^上の^上方^上より^上 ^上村^上を^上あ^上つ^上く^上は^上殿^上
 此^上よ^上あ^上る^上い^上う^上あ^上す^上お^上ひ^上え^上結^上ひ^上を^上り

別公卿令改あつて日定て変化の者
 来へ一武士よおほせて教言まみへ一連
 源平あ家の兵を拵せしきける程ふ
 頼政を拵み出されり曲下頼政を討ハ
 兵庫院とぞ申ける拵みよる郎軍ふハ
 猪早太只一人る具一りヤア家身ハ二ま

此狩衣よ山鳥の尾にう割きりき侍
 陣矢二筋重なる此弓よなそへて山殿の
 大床よ祓儀して清徳の制限をいまや
 くと待居りり去程よ案れどくヤア
 雲一村立まの清殿此よあるひり
 頼政きつと見えあふまらばおちよあや

しん... 軽むへ... 五十二... 家... 姓... の... 深... 察...
に... ひ... う... ま... そ... せ... ぬ... 如... 此... 月... 乃... 東... 汶... に... う... へ... 津...
... 是... の... 事... 也... 夫... の... 事... 也... 夫... の... 事... 也...
... 目... 前... の... 事... 也... 夫... の... 事... 也... 夫... の... 事... 也...
... 虎... の... 事... 也... 夫... の... 事... 也... 夫... の... 事... 也...
... の... 事... 也... 夫... の... 事... 也... 夫... の... 事... 也...
... の... 事... 也... 夫... の... 事... 也... 夫... の... 事... 也...

化... 成... 以... 法... 日... 法... の... 海... と... 夫... 王... 城... 近... 乎...
... 通... 海... 一... 東... 三... 条... の... 林... 際... 乎... 替... 所... 行... 一... 旦...
... 三... 丈... 五... 寸... の... よ... 敷... 一... 寸... 五... 分... 敷... 此... 上... に... 布... 敷... 入...
... 日... 上... 別... 法... 怒... 頻... 一... 寸... 五... 分... 敷... 此... 上... に... 布... 敷... 入...
... ひ... え... た... ま... 一... 寸... 五... 分... 敷... 此... 上... に... 布... 敷... 入...
... 一... 寸... 五... 分... 敷... 此... 上... に... 布... 敷... 入...
... 一... 寸... 五... 分... 敷... 此... 上... に... 布... 敷... 入...
... 一... 寸... 五... 分... 敷... 此... 上... に... 布... 敷... 入...

40 2

矢先よあゝれぬん志ん失て落とぬと
 地ふゝるれく白子城を一車とらへ輕政が
 矢さ記よりい思の天符を當つらるよと今
 此思ひこころをいれ後ま上げ裁みて
 獅子王とらふは剣を輕政よ下されきるを宇
 治の大長孫りて階をありゆふた打その歌

昔伝をれば大長孫あへむ 時智名をも
 重井子揚る式と傳れをきば 輕政右の
 膝をついてたの神をひろげ月をり目ふ
 思く弓張月のいるよ似せてと伝りは劍
 を賜り思ふを強ゆれば輕政も名を揚
 て家ハ名を流にうつるよみ押入られて流

智

終

